



2018-2019年度

会長 川岸 芳雄

幹事 仙丸 和幸

出席報告

本日出席 23人
 欠席 9人
 出席率 73.33%
 3148回のメイクアップ なし
 3148回の出席率
 63.33% → 63.33%

ニコボックス報告

西村 敏信 君 夫人誕生祝い
 寺田 祐子 君
 夫が3/21に4年半の台湾駐在を終え、完全帰国することになりました。

Happy Birthday

西村 敏信 君 妻は62歳。バレンタインデーが誕生日で忘れることはありません。最愛の妻で、本日は妻孝行したい。

会長挨拶 川岸 芳雄 会長

北鬼江の松の移植は県と交渉した結果、1メートル50センチの丘ができて、その上に石碑が建つことになる。

海と山を見ながら石碑を読むようにしたいという我々の願いがかなうことになった。松の若木を植え、6月上旬にはすべて完成する予定。6月の例会は見学会にしたい。

卓話

新分野産業育成事業 〈つくるUOZUプロジェクト〉

茶谷 勝 君



卓話では茶谷勝君が、魚津市が近年取り組んでいるゲーム産業の育成について話しました。

魚津市は平野部が少なく、大規模な工場誘致が難しい土地柄。若年層の流出が大きく、人口は年々減少しています。解決策には若者が魅力を感じる産業を

魚津に根付かせる以外にない、との判断で始まった取り組みです。

ソニー生命保険が2017年に行った意識調査で、中高生が将来になりたい職業の上位がゲームクリエイターだそうです。茶谷君自信はゲームが大嫌いで、お子さんにもゲーム機は一切持たせていないそうですが、スマホが通信速度の速い5Gの世界になると、大型産業として認めざるを得ない世の中になってきたと言います。

実際に魚津市が開いたゲームフォーラムなどには、大勢の若者が県内外から参加し、泊りがけで夜通しゲームづくりに夢中になる姿に、潜在能力の高さ見せつけられたそうです。

福井県から毎月魚津に通い、短大を卒業したら魚津に住みたいと言っている女子短大生もいるそうで、「ゲームの町・魚津」になる日が決して夢物語ではないと感じさせました。

例会の一コマ



出席報告

本日出席 19人
 欠席 13人
 出席率 63.33%
 3149回のメイクアップ 2人
 3149回の出席率 56.67%→63.33%

ニコボックス報告

吉森 勝代 君 誕生祝い
 大村 雅紹 君 夫人誕生祝い
 坪井 孝博 君 夫人誕生祝い

Happy Birthday

坪井 孝博 君 先日大学1年の長男が帰ってきて喜んでいたので、すぐ戻って寂しがついてるので、今日はこれで慰めたいと思います。



大村 雅紹 君 妻は71歳。いつもこの季節には「雛の会」を20年余りやってきたが、70歳でやめて、来月の準備もせずにのんびりしています。



お別れの挨拶

大割 範孝 君 人事異動の内示を受け、2/25付で本社に戻るになりました。新たな職責は、北日本新聞社編集局次長兼文化



部長で、新聞制作の現場に戻ります。ロータリーで学んだことは数多く、次の職場で生かしたいと思います。

卓話 「ケーブルテレビを取り巻く環境の変化」

西村 敏信 君



卓話では西村敏信君が刻々と技術進化しているケーブルテレビの可能性について話しました。

NICE TVは今年開局20周年を迎えます。儲からない事業の代名詞と言われた時代もあったそうですが、業界全体の売上高は1兆2千億円に上り、雑誌

の総売上を抜いたそうです。

ケーブルは「有線」というイメージが強いですが、Wi-Fiなどの「無線」と「通信」が本格的に融合する新たな時代に入ろうとしているとのことです。

特に今年は、次世代移動通信規格「5G」の導入が本格化する「5G」元年。現在のスマホの4Gと比べると、2時間の映画のダウンロードに5分かかっていたものがたったの3秒で済むという超高速通信。ほかにも通信の遅れがわずか1千分の1秒、1平方キロ当たり100万台の機器を同時にインターネット接続することが可能になる超優れものだそうです。

こうなるとできることが違う次元になります。映像や音響情報をリアルタイムにフィードバックさせてクレーンを遠隔操作したり、高精細カメラを搭載したドローンも遠隔操作し、遭難者の救助に活用したり、積雪量を自動計測して除雪車への指示や運転支援などをしたり…。

社会が大きく変わりそうなイメージが膨らみました。ケーブルテレビに限らず、どの企業も変化に追いついていくことが必要になりそうです。

例会の一コマ

